



## 福島あつし写真展開催!! 2022.10.16～23 『ぼくは独り暮らしの老人の家に弁当を運ぶ』



(中央公民館ロビー)

### —はじめての実行委員—

実行委員はやったことがなく不安でいっぱいでしたが、先輩方から背中を押してもらいやってみることにしました。長年やっている方々の段取りの良さは、とても勉強になりました。いつか私も、リーダーができるようになりたいと思いました。

写真展当日は、とても楽しい時間を過ごすことができました。誰も来なかったらどうしようと心配でしたが、「えんさん、久しぶりだね」、「チラシみて来たよ」とたくさんの方が来てくださいました。「コンサートはまだなの?」と、いつものイベントを楽しみに待っていてくれるということもわかりました。嬉しかったです。委員をやらなかったら、こうして地域の方達の声を直接聴くことができませんでした。えんは、地域の方に愛されて支えられているんだと改めて感じました。私は、もっとこの地域が好きになりました。写真展に来てくださった方、声をかけて応援してくださった方、本当にありがとうございます。

(多機能ホームまどか/和知佳汰)



## 介護サービス利用料が2倍に？史上最悪の介護保険改定

新型コロナウイルス感染症6回の波を何とか避けてきたグループホームえんですが、感染力の強い第7波時には大きなクラスター感染を起こし、おひとりが亡くられる事態になりました。介護施設での感染症対応の困難さは想像以上で、3週間の療養期間中は無我夢中の日々でした。この冬は第8波がインフルエンザの流行と合わせてやってくるのか。世の中は「コロナ明け」の様相ですが、感染弱者に係る私たちはまだまだ緊張が続きます。

さて、2024年の介護保険改正に向けて社会保障審議会介護保険部会の議論が進んでいます。今回の改正案はまさに「史上最悪」と言えるもので、何とか食い止めたいと樋口恵子さん、上野千鶴子さんを中心に『史上最悪の介護保険改定を許さない！会』を結成して活動中です。趣旨は以下のとおりです。

### 1. 自己負担2割を標準にするな

現状の1割負担でも経済的に苦しくサービス利用を削る人がいます。また認定を受けた25%の人がサービス利用に至っていません。2割負担を標準にすれば、多くの人が必要なサービス利用を減らす、最初からあきらめるなど、「保険あって介護なし」の事態が起きるのは火を見るよりも明らかです。高齢者の貧困率は2割を超え、年金は減る一方、昨今の物価高で生活費は高騰しています。負担増よりむしろ負担減が必要な状況です。

### 2. 要介護1・2の訪問介護、通所介護を地域支援・総合事業に移すな

要介護1・2は決して軽度者ではありません。介護サービス利用理由のトップである認知症がある人も、このランクの人々が最も配慮が必要な時期です。市町村による総合事業に移行すると、訪問型サービス従事者は数日間の研修受講で介護の提供が可能になり、適切な支援ができるとは考えられません。また、要介護認定者に対する介護給付は保険者の義務ですが、「事業」は予算の範囲内で提供するのが原則です。ゆえに上限に達したらサービスを受けることができないことも起きえます。

そして、これまでの要支援者に対する「事業」は、提供者、従事者が不足し機能していない自治体が多いのが現実です。

### 3. ケアプランを有料にするな

ケアマネジャーが提供するケアマネジメントは、介護保険サービスの入り口です。入り口からお金がかかることで要介護認定を受けても介護保険を利用することへのハードルが上がるでしょう。また有料にすれば適切なケアプラ



ンを提案するよりも、利用者や家族に迎合するケアマネが増えることが懸念されます。

ケアマネジャーの役割は、介護サービス利用のためのプラン作成にとどまらず、孤立を防ぐ、虐待を防止する、在宅介護の限界を見極めるなど多岐にわたります。定期的な訪問により、介護が必要な人の心身の状態を確かめ、ケアプランの見直しなどを提案する、在宅・施設を通じて介護保険サービス提供の根幹となるものです。この過程で、医療・福祉・地域の社会資源との連携が必須のソーシャルワーク機能を果たす介護保険にとどまらない視点を求められる業務なのです。

#### 4. 福祉用具の一部をレンタルから買い取りにするな

「単価の安い福祉用具」をレンタルから買い取りに変えることは、用具の正しい使い方指導、個人に合わせた用具の調整や定期的な点検が失われることにつながります。また、レンタルであれば状態の変化で適切な用具に変更できたものが、不適切になった用具を使い続ける、不要になった用具が自宅にしまい込まれるなど、資源の無駄遣いが発生します。

#### 5. 施設にロボットを導入して職員配置を減らすな

今回の改定には具体的に入っていませんが、AI や ICT の導入によって介護施設の職員配置基準を今の3対1から4対1にしようと、実証実験が始まっています。ロボット化を推進したからといって、配置基準を減らす理由にはならず、施設の人手不足に配置基準を緩和することで対応する奇策は許されません。現在でも離職率が高く人手不足に悩む施設介護の配置基準を減らせば、今以上に介護職員の負担を増し、介護の質の低下を招き、介護現場の労働破壊をもたらすでしょう。

この会では、WEB集会（4回、テーマ別）と国会集会を開催、その様子は終了後にもYouTubeで視聴することができます。以下の URL から入ることが可能です。複雑な改正案がよくわかる中身になっています。

アクション > 【10/20 更新】第2回 10/19 19:00-Youtube 同時配信！「史上最悪の介護保険改定を許さない！」ための連続行動に皆さんの参加を呼びかけます。一史上最悪の介護保険改定を許さない！会 — | ウィメンズアクションネットワーク Women's Action Network (wan.or.jp)

イラスト／村上千寿子



代表理事 小島美里



～たくさんの感想をいただきました。その一部をご紹介します。～

- お弁当の写真をみて『おいしそう！』と思いました。どの写真からも利用者さんの声が聞こえてきそうでした。
- 在宅介護の末、亡くなった母や、一人で暮らす父を思うと切ない思いになりますが、可哀相な高齢者ではなく、ただ懸命に生きる人間が写っていました。これからも良い写真を！
- ゴチャゴチャになった部屋、積みあがった衣類やらなにやら…片付けがイヤになってドアを閉めて出てきた。ストレスだ～と思って出てきたけど、福島さんの目を通して、そんな自分を見直していいんだ。嬉しい懐かしい気持ちかわいてきた。
- 老人の方々が生きようとしている姿を強く感じとることができました。忘れられがちな独居老人の方々の姿を見ることで、改めて私たち自身の問題であるということを確認しました。
- 独居高齢者の現実を見ました。日本は昔、長生きを喜び感謝の中で死を迎えていく国でした。写真の現実をみて「生きる美しさ」「生きる強さ」もあるのかもしれませんが、やはり何とかしなければならぬことも痛感しました。私は議員です。大きな責任を感じました。
- 現実であるこの写真を見せていただいて、胸にこみあげてくるものがありました。
- 光の使い方がすばらしいです。立体感や人の人生の奥深さを感じました。
- どんなに元気な人も最後は皆老いていく。独り暮らしの人がどういう生活をしているか写真を見て、地域で支えていくとか、これから皆で考えていかななくてはならないと思う。
- 私は他の地域で小規模多機能施設にて働いています。まだ経験が浅く、衝撃的な現場に立ち合う事もあったり、逆に見習わせて頂く独居の利用者さんに出会ったりしています。写真から伝わってくる、お一人おひとりの「生」を感じ、日々の私の仕事の姿勢を改めて考え、がんばっていきましょうと思いました。
- 一枚一枚の写真をみながら、そのシーンにどんな物語があるのだろうと想像しました。写真家と被写体と作品を見る人。各々が持っている人生を奥深く思考させられる写真展でした。「生」の生々しさを感じました。
- 人生の肯定、自分自身の肯定すべての写真が語っているように思います。必死の表情、優しい笑顔、力強いまなざし、様々な表情に人生の重味を感じます。どんな状況でも生きぬくことは力強いですね。
- 吾はまだ、まだ、まだ、まだ、まだ、まだ、まだだよ。吾もまたこの人らのあとを行く



イラスト／小野実穂



えんの食卓は 10 年目！ ②

前回に引続き、10 年目を迎えスタッフが感想をかきました。

🍴🍴まず安心!!今日もつながる弁当で!!(胡桃澤進)

🍴🍴「えんさんのお弁当は美味しいからお願いしたい」といろいろな方から言われます。何年も続けて利用されている方がいるのが、真実なんだなあって実感しつつ私自身も 7 年目になります。『えんの食卓 10 年目🍴』に携わっている事に嬉しさを覚えています。(榎本陽子)

🍴🍴えんの食卓で調理する一員として 5 年が過ぎました。時間に追われる中での作業、野菜の下処理、ご飯の盛り付け等最初は戸惑う事ばかり、間違いをしてもみんなにフォローしてもらいとても良い雰囲気の中で仕事ができることをうれしく、感謝しています。(伊藤博美)

🍴🍴高齢者のための味の付け方、素材による切り方の違いなど気をつけています。(小野忍)

🍴🍴美味しいと安心をお届けして、「ありがとう」をいただいて幸せです。(齋藤順子)

🍴🍴配達の際に優しく声をかけてくださる方が多く、うれしいです。美味しいと思ってもらえるご飯を作れるよう努力していきたいです。(松崎有依子)

🍴🍴えんの食卓は単に食事提供だけでなく、利用者さん一人ひとりのかわりを大切にしています。日々変わる健康状態を確認し、必要があれば各部署に連絡を取り適切な対処を行っています。グループホームに居住されている方々にも毎日顔を合わせられますし、災害時のための食料の備蓄も行っています。多くの場面でえんの各事業にかかわる大切な部所であると再認識しているところです。(河野秋子)

🍴🍴「えん」があり仕事させていただいています。利用者さんはもちろんですが、一緒に仕事をしている皆さんも、一日一度一瞬の関りですので、「丁寧に」を心がけて。私自身も幸せに良い気持ちになるように。(高橋優子)

🍴🍴3 月から配達員を始めたばかりで、慣れない事もありますが安全運転を心がけお弁当をお届けします。(高島朱美)

🍴🍴配達時に利用者さんとお話させていただくのが楽しみです。ユーモアがあったり、冗談を言われたり、優しい言葉をかけていただいたり、いつも元気をいただいています。(富山優子)



## 新型コロナウイルス感染症クラスター発生

2020年春にコロナウイルス対策が始まり、当初は「入居者さんたちの命と暮らしを守る！」という強い緊張感で毎日を過ごして来た。しだいにこの感染症のことがわかり、ワクチン接種も始まり、徐々に家族の面会やレクリエーションも感染の波に合わせて対応することができるようになった。しかし8月、突然グループホームえんで感染が爆発した。入居者9人のうち8人が陽性、1名は陰性だが発熱や咳などがあり「みなし陽性」として対応、スタッフも9名のうちの8名とデイホームえんスタッフが1名陽性になった。

入居者たちの症状は多くの方が軽症で、熱も一両日で下がり、咳も数日で収まった。一方スタッフはもう少し重く、高熱の後、咳と倦怠感に長く苦しんだ者もいた。しかし1名の入居者が、症状が悪化して入院され、コロナは陰性になった後亡くなられた。92才で最近では老衰も進んできていた方だが、コロナに感染しなければもっと穏やかな最期を迎えられたかもしれないと悔いが残る。

8月初旬の最初の陽性者の発生から、最後の感染者が療養解除となるまでの約3週間、デイホームえんをはじめ法人内他事業所のスタッフの協力で何とかケアを継続することができた。

この間、スタッフ全員が保健所とは繋がらず、医療機関での受診も出来なかった。入居者は主治医から保健所へのルートがあり、すぐに連絡は来たのだが、症状が軽いと入院は受け付けてもらえず、「認知症がある方をこの施設で隔離することは不可能」と説明しても、「各室に施設してはどうか」と言われた。保健所の職員たちは休日返上で業務に取り組んでいたに違いなく、精いっぱいアドバイスだったのだろう。また、救急隊員の方たちや、在宅酸素の会社のスタッフの誠実な対応に救われた。だがそれは点のままでつながらず、野火が燃え尽きるのを待つような対応をせざるを得なかった。

積極的な広報がされていなかったのが療養解除後になってしまったが、埼玉県看護協会の感染管理認定看護師とグループホームえんの見取り図を見ながらの「感染対策予防相談」を受けることができた。感染対策やゾーニングなどの対応は考えてあったが、第7波の感染力の強さでは、いったん感染が始まったら止められなかったこともよく分かった。

想像もしたくないが、必ずあるという新たな感染症に備えて強力な対策を世界中で練ってほしいと強く願う。

(グループホームえん／井上暁子)





## ひまわり物語

5月の下旬にひまわりの種を蒔きました。

その後すぐに大雨が降ったので種が流れてしまわないかと心配でした。そんな心配をよそにみんな小さな芽をひょっこり出していました。

1ヶ月もすると暑さも手伝って茎もしっかり太くなり背もどんどん伸びてきました。

水やりがとても大変でしたが何往復もして枯らさないように気をつけました。

8月に入るとわたしの背を超えて大きなひまわりが次々に咲き始めて元気な黄色の花びらを沢山つけました。みんな太陽に向かって顔を上げている姿は立派でした。

9月には元気だったひまわりも下を向くようになり種の収穫の時期です。早速鳥に食べられてしまったものもありましたが、たくさんの種が採れました。

これからこのひまわりの種たちが福島で新たな形に変わるのを想像すると楽しみです。



イラスト／田島薫

まどかが「ひまわりプロジェクト」に参加して8年が経ちました。この年月多くの人に関わってきました。まどか利用を終了した人も多くいます。きっとどこにいても見ていてくれると思うと、また来年も育てたいという気持ちが大きくなります。

(多機能ホームまどか／田島 薫)



「新座ひまわりプロジェクト」は、2011年3月11日に東日本を襲った大きな地震、それにより起きた原発事故で福島県内で栽培できなくなったひまわりを全国で栽培、種を収穫して福島に戻すという活動です。全国から集まった種は福島で食用のひまわり油（商品名「みんなの手」）が作られます。そして、収益は復興支援や福島の子どものための保養プログラムに充てられます。



## えんの歳月を詰め込んだ本を出しました！

『あなたはどこで死にたいですか？～認知症でも自分らしく生きられる社会へ～』（岩波書店 定価：税込2,310円）は、朝日新聞書評、東京新聞新刊案内などに取り上げられるなど、反響を呼んでいます。多くの事例は、膨大な記録をもとにまとめました。えんの20年を超える活動をベースに著しました。ぜひ、お読みください。



### ◆ 認知症電話相談のお知らせ ◆

認知症に関する悩みごと、介護のコツや生活の工夫等々、お気軽にお電話ください。

TEL 048-480-4150

～今後の地域交流事業について～  
認知症カフェは参加者を限定して開催（暮らしネット・えんまでお問い合わせください）  
だれでも食堂にいざはお休みさせていただきます。

～新型コロナウイルス対策～  
第8波は感染力が強いと聞きます。感染防止対策につとめてまいります。



## 職員大募集！！

離職率が低いと評判の暮らしネット・えんで一緒に働いてみませんか？

ヘルパー（訪問介護職員）・介護職員・送迎運転担当者募集しています。  
資格がない方も資格取得のお手伝いをいたしますので、ご相談ください。

地域で暮らし続けていくために 2022年度新規・継続会員募集中！

正会員：1000円 賛助会員：3000円

※入会を希望される方は、事務局までご連絡ください。

郵便振替(00180-5-314344)



イラスト/田島薫



■ 編集・発行 認定NPO法人暮らしネット・えん

〒352-0033 埼玉県新座市石神2-1-4

電話：048-480-4150 FAX：048-201-1311

Eメール：npoenn@jcom.home.ne.jp

ホームページ：https://npoenn.com/